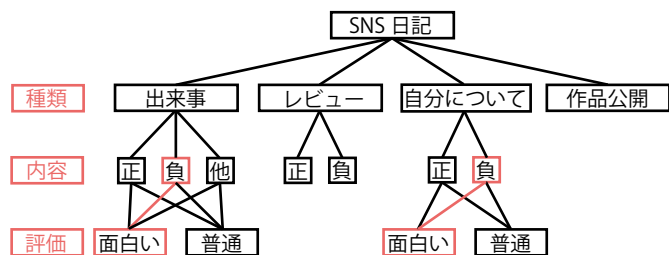


負の日記をあえて面白く書く

SNSでの日記を分析すると日記の種類には大まかに4種類あった。また、日記の内容にも楽しかったことなどの正の内容と失敗談などの負の内容、両者が混同している内容に分類した。負の内容の日記を面白く書かれている傾向が見られ、そのような日記にはコメントが多かった。



SNS ではたくさんのコメント

現実では、悩みの相談相手は友人や親など限られた人だけである。しかし、SNSではひとつの悩みに対し、仲の良い人だけではなく、たくさんの人から励ましのコメントをもらうことができる。

現実

限られた友人からの励まし



SNS

落ち込んでいる日記にたくさんの人からコメント



誰もが快感を得たい

SNSで日記を書くときの心理として、ユーザはたくさんのノウハウを駆使して自分の思惑通りのコメントを読み手からもらうことで快感を得ようとしていると考えた。



コメントをもらうためのノウハウ

現在のSNSでは、文字によるやりとりが主体であるため、自分が望んでいるコメントを相手から引き出すための様々なノウハウが存在していた。負の日記を面白く書くのもノウハウの1つだった。しかし、ノウハウを使うことができるのは一部の人だけであり、すべてのSNSユーザが楽にできないと考えた。

- 1 目を引くタイトル
- 2 前置き
- 3 長い改行の後に大事なキーワード
- 4 隠された未練
- 5 ダメ人間アピール
- 6 崖っぷちアピール
- 7 自問自答
- 8 大きな表現
- 9 孤独アピール
- 10 客観的な視点
- 11 問いかけ
- 12 明るく振舞う
- 13 話のオチをつける
- 14 マメなコメント返し

みんなが使いこなせるわけではない

日常生活の経験とイメージに着目

ノウハウを使わずにやりとりを行えるようにするため、日常生活での感情が伝わる場面を探した。枯れた花から悲しいイメージを感じたり、落ち込んでいるときに温かい飲み物をもって励まされたりなど、日常生活の経験を使うことで感情のイメージを想起しやすくなると考えた。

濡れないように傘を…



風邪を引かないように…



枯れそうな花に水を…



雨降りが快晴に



はげましの缶コーヒー

